

平成23年度第2回学校教育審議会後の意見

【学校・学級の適正規模、校区のあり方について】

◎倉吉市学校教育審議会を経て

少し整理を試みようとしました。

そもそもこんな重大な問題は、短期間で答えの出ることではないので、段階を追って少しずつ共通理解しながら進めるよりないかもしれないという思いが強いというのが本音です。多分・・・“答申”を受けて住民討論が始まるという設定なのでしょうが、関心の高い方々が見え隠れしている現状を考えると、“取り敢えず答申”では危険な気がしてなりません。

●1点目は、「適正規模」の裏に見え隠れする現実・本音の部分についてどこまで向き合えるかということのような気がします。つまり、“地域から学校がなくなるかもしれない不安の大きさ”を、たたみかけるように“適正規模問題”ですり替えられようとしてる現実それぞれに校区に住む人たちは納得し難い思いに直面するのではという気がするのです。

〈そんなことは何十年も前からあったこと…なぜ今なのか〉

〈そんなに子どもたちが変わってしまったのか…そうは思えない〉

〈統廃合への一番の思いは…別にありはしないのか〉

本当に大切なのは何だろうかと思わずにはられません。みんなが共通理解していくことの“段階的課題”があるように思えてなりません。

●14小学校がこのままあり続けることが倉吉市の教育にとってふさわしいのか・・・何もしないでそれぞれの状況を“適正規模”と捉え続けることは、時代を担う子どもたちのためによいとは言えないのではないかとこの視点でまずは語り合う段階が必ず要る！と思えてなりません。

〈適正規模にも限度があることの共通理解が必ずできる！と思う〉

〈7年後・平成29年度の市内小学校の1学年の児童数は、14校中7校で25名を割って単学級編成・・・15名以下の規模が5校にも上がることが示されている〉

※残せ残せと声高に叫ぶ前に

①自分たちの地域を見つめ直してみようよ！少子化・定住化の問題は自分たちの手の内にあることでもないだろうか？

②同じ轍を踏まないためにも「時代を担う子どもたちのためにどうするのがいいのか」の思いの出し合いをみんなできなないだろうか。

・明日の教育を考える会の提言に盛られた真意も含めて地域に返ししながら無理をしないで“我々の地域・学校も大切にされている”実感を重ねていく以外にないように思えてなりません。

・そんな意味で「適正規模の提示」は、一足飛びという感じがしてしまいます。

・“財政的な視点・子育ての視点”といったように、検討に向けてそれぞれの管轄部署の考え方も同じ方向を向いていることを提示していくことが要ると思います。

必要性をしっかりと出していくことと、議員さん方が「地元一辺倒ではなく、倉吉の将来」を見据えた動きをされるような形にならない限り・・・とっても難関であると思えてならない私です。まだまだ、“グダグダ グダグダ”考えています。

◎私が疑問に思ったこと

・小中一貫校にしる、小学校区の再編成にしる、それにとまなう学校の器が必要になってきます。倉吉市には、その為の予算があるのだろうか？という疑問です。空き教室のある学校を対象にするにしる、通学に支障が出てきます。その為に倉吉市はバスで送迎してくれるのか？交通費の負担をしてくれるのか？この問題は次の段階の話なのかもしれませんが、予算もないのにできもしない話を進めても無駄なのではないでしょうか？

・小規模校には教員の数が少ない。教員になりたい講師はたくさんいるのだから、学校ごとに希望する教員をおいてほしい。ただし、講師の指導力も教育委員会にはチェックしてもらいたい。保護者の立場からすれば、「講師だから1年間の我慢」と割り切れることもできるが、中学校での1年は子ども達の学力に非常に影響する。